

尿失禁・頻尿治療剤

日本薬局方 プロピペリン塩酸塩錠

薬価基準収載

日本標準商品分類番号 87259

プロピペリン塩酸塩錠 10mg「YD」 プロピペリン塩酸塩錠 20mg「YD」

PROPIVERINE HYDROCHLORIDE TABLETS「YD」

先発医薬品名: パップフォー錠10/錠20[大鵬薬品工業]



●個装箱・PTPシートは30%縮小です。

●錠10mg



錠10mg (PTP: 10錠シート) L: 88mm × W: 36mm

●錠20mg



錠20mg (PTP: 10錠シート) L: 88mm × W: 36mm

●錠剤・PTPシートは実物大です。

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

1. 幽門、十二指腸又は腸管が閉塞している患者 [胃腸の平滑筋の収縮及び運動が抑制され、症状が悪化するおそれがある。]
2. 胃アトニー又は腸アトニーのある患者 [抗コリン作用により症状が悪化するおそれがある。]
3. 尿閉を有する患者 [抗コリン作用により排尿時の膀胱収縮が抑制され、症状が悪化するおそれがある。]
4. 閉塞隅角緑内障の患者 [抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状が悪化するおそれがある。]
5. 重症筋無力症の患者 [抗コリン作用により症状が悪化するおそれがある。]
6. 重篤な心疾患の患者 [期外収縮等が報告されており、症状が悪化するおそれがある。]



第一三共エスファ株式会社

URL <https://www.daiichisankyo-ep.co.jp/>

【お問い合わせ先】

第一三共エスファ株式会社 お客様相談室 ☎ 0120-100-601 受付時間: 平日9:00~17:30 (土・日・祝日・弊社休日を除く)

【夜間・休日 緊急時のお問い合わせ先】

日本中毒情報センター第一三共エスファ受付 ☎ 0120-856-838 受付時間: 平日17:30~翌9:00及び土・日・祝日・弊社休日

プロピペリン塩酸塩錠 10mg「YD」/錠 20mg「YD」 Drug Information

（一般名／プロピペリン塩酸塩）

貯法	室温保存、気密容器	承認番号	薬価収載	販売開始	効能追加
使用期限	包装に表示の使用期限内に使用すること。	錠 10mg	22500AMX00511	2013年6月	2010年8月
		錠 20mg	22500AMX00512	2013年6月	2010年8月

禁忌	【禁忌】（次の患者には投与しないこと） 1. 幽門、十二指腸又は腸管が閉塞している患者〔胃腸の平滑筋の収縮及び運動が抑制され、症状が悪化するおそれがある。〕 2. 胃アトニー又は腸アトニーのある患者〔抗コリン作用により症状が悪化するおそれがある。〕 3. 尿閉を有する患者〔抗コリン作用により排尿時の膀胱収縮が抑制され、症状が悪化するおそれがある。〕 4. 閉塞隅角緑内障の患者〔抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状が悪化するおそれがある。〕 5. 重症筋無力症の患者〔抗コリン作用により症状が悪化するおそれがある。〕 6. 重篤な心疾患の患者〔期外収縮等が報告されており、症状が悪化するおそれがある。〕
----	--

組成・性状	1. 組 成 1 錠中にそれぞれ次の成分を含有			2. 製剤の性状					
	販売名	有効成分	添 加 物	剤 形	色	外 形			識 別 コード (PTP)
						直径 (mm)	厚さ (mm)	重さ (mg)	
	プロピペリン 塩酸塩錠 10mg「YD」	プロピペリン塩酸塩(日局) 10mg	乳糖水和物、セルロース、ヒドロキシプロピル スターチ、カルメロースCa、ヒドロキシプロピル セルロース、ステアリン酸Mg、ヒプロメロース、 酸化チタン、タルク、カルナウバロウ	フィルム コーティング錠	白色	YD 364			Y D 364
						約6	約3.2	100	
*プロピペリン 塩酸塩錠 20mg「YD」	プロピペリン塩酸塩(日局) 20mg	乳糖水和物、セルロース、ヒドロキシプロピル セルロース、ヒドロキシプロピルスターチ、ステ アリン酸Mg、ヒプロメロース、マクロゴール、 酸化チタン、タルク、カルナウバロウ	フィルム コーティング錠	白色	YD 365			Y D 365	
					約7.1	約3	125		

効能効果	○下記疾患又は状態における頻尿、尿失禁 神経因性膀胱、神経性頻尿、不安定膀胱、膀胱刺激状態（慢性膀胱炎、慢性前立腺炎） ○過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁	（効能・効果に関連する使用上の注意） 1. 本剤を適用する際、十分な問診により臨床症状を確認するとともに、類似の症状を呈する疾患（尿路感染症、尿路結石、膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路における新生物等）があることに留意し、尿検査等により除外診断を実施すること。 なお、必要に応じて専門的な検査も考慮すること。 2. 下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）を合併している患者では、それに対する治療を優先させること。
------	--	---

用法・用量	通常、成人にはプロピペリン塩酸塩として20mgを1日1回食後経口投与する。 年齢、症状により適宜増減するが、効果不十分の場合は、20mgを1日2回まで増量できる。	（用法・用量に関連する使用上の注意） 20mgを1日1回投与で効果不十分であり、かつ安全性に問題がない場合に増量を検討すること。
-------	--	---

使用上の注意	1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること） (1) 排尿困難のある患者〔前立腺肥大症等では排尿困難が更に悪化又は残尿が増加するおそれがある。〕 (2) 緑内障の患者〔閉塞隅角緑内障の患者は禁忌である。閉塞隅角緑内障以外でも抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状が悪化するおそれがある。〕 (3) 不整脈又はその既往歴のある患者〔期外収縮等が報告されており、症状が悪化するおそれがある。〕 (4) 肝障害又はその既往歴のある患者〔主として肝で代謝されるため、副作用が発現しやすいおそれがある。〕 (5) 腎障害又はその既往歴のある患者〔腎排泄が減少し、副作用が発現しやすいおそれがある。〕 (6) パーキンソン症状又は脳血管障害のある患者〔症状の悪化あるいは精神神経症状があらわれることがある。〕 (7) 潰瘍性大腸炎のある患者〔中毒性巨大結腸があらわれるおそれがある。〕 (8) 甲状腺機能亢進症の患者〔抗コリン作用により頻脈等の交感神経興奮症状が悪化するおそれがある。〕 (9) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照） 2. 重要な基本的注意 眼調節障害、眠気、めまいがあらわれることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等、危険を伴う機械の操作に従事させないように十分に注意すること。 3. 相互作用 本剤は主として薬物代謝酵素CYP3A4で代謝される。 併用注意（併用に注意すること）		（効能・効果に関連する使用上の注意） 1. 本剤を適用する際、十分な問診により臨床症状を確認するとともに、類似の症状を呈する疾患（尿路感染症、尿路結石、膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路における新生物等）があることに留意し、尿検査等により除外診断を実施すること。 なお、必要に応じて専門的な検査も考慮すること。 2. 下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）を合併している患者では、それに対する治療を優先させること。
	薬剤名等 抗コリン剤 三環系抗うつ剤 フェノチアジン系薬剤 モノアミン酸化酵素阻害剤	臨床症状・措置方法 口渇、便秘、排尿困難等の副作用が強くあらわれることがある。	機序・危険因子 抗コリン作用が増強される。

の取扱い 意上	1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること） (1) 排尿困難のある患者〔前立腺肥大症等では排尿困難が更に悪化又は残尿が増加するおそれがある。〕 (2) 緑内障の患者〔閉塞隅角緑内障の患者は禁忌である。閉塞隅角緑内障以外でも抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状が悪化するおそれがある。〕 (3) 不整脈又はその既往歴のある患者〔期外収縮等が報告されており、症状が悪化するおそれがある。〕 (4) 肝障害又はその既往歴のある患者〔主として肝で代謝されるため、副作用が発現しやすいおそれがある。〕 (5) 腎障害又はその既往歴のある患者〔腎排泄が減少し、副作用が発現しやすいおそれがある。〕 (6) パーキンソン症状又は脳血管障害のある患者〔症状の悪化あるいは精神神経症状があらわれることがある。〕 (7) 潰瘍性大腸炎のある患者〔中毒性巨大結腸があらわれるおそれがある。〕 (8) 甲状腺機能亢進症の患者〔抗コリン作用により頻脈等の交感神経興奮症状が悪化するおそれがある。〕 (9) 高齢者（「高齢者への投与」の項参照） 2. 重要な基本的注意 眼調節障害、眠気、めまいがあらわれることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等、危険を伴う機械の操作に従事させないように十分に注意すること。 3. 相互作用 本剤は主として薬物代謝酵素CYP3A4で代謝される。 併用注意（併用に注意すること）		（効能・効果に関連する使用上の注意） 1. 本剤を適用する際、十分な問診により臨床症状を確認するとともに、類似の症状を呈する疾患（尿路感染症、尿路結石、膀胱癌や前立腺癌等の下部尿路における新生物等）があることに留意し、尿検査等により除外診断を実施すること。 なお、必要に応じて専門的な検査も考慮すること。 2. 下部尿路閉塞疾患（前立腺肥大症等）を合併している患者では、それに対する治療を優先させること。
	薬剤名等 抗コリン剤 三環系抗うつ剤 フェノチアジン系薬剤 モノアミン酸化酵素阻害剤	臨床症状・措置方法 口渇、便秘、排尿困難等の副作用が強くあらわれることがある。	機序・危険因子 抗コリン作用が増強される。

包装	プロピペリン塩酸塩錠 10mg「YD」 プロピペリン塩酸塩錠 20mg「YD」	(PTP) 100錠 (PTP) 100錠	(バラ) 500錠
----	--	--------------------------	-----------

●詳細は電子化された添付文書（電子添文）をご参照ください。電子添文の改訂に十分留意してください。

2021年6月改訂（第11版）
*2015年2月改訂